

令和7年度 事業報告

令和7年度 丹波篠山市社会福祉協議会 事業報告
基本目標「誰もがつながり 支えあうまち 丹波篠山」

令和7年度は、1つ「明るく、元気で、信頼される社会福祉協議会を目指し」2つ「福祉職の専門性を活かし、逃げない、諦めない、寄り添う相談の展開と権利擁護システムの構築」3つに「福祉でまちづくり（地域福祉の推進）を住民主体で取り組む丹波篠山市の創造」を掲げ、全社協「社会福祉協議会基本要項 2025」が示す「住民主体」を基本原則にし「生活・福祉ニーズの把握」「住民主体の活動への援助」「個別の支援と地域づくり支援」を社会活動の原則に据え、社協職員一人ひとりが住民とともに地域福祉の推進に取り組みました。

南海トラフ地震の発生確率が高まりを見せる中、大災害から命を守るための備え、有事の際のネットワークづくりを地道でも着実に進めるため、「災害ボランティアセンターネットワーク会議」を開催し、防災訓練の具体的な展開を図れるよう確認しました。

日常生活に欠かせない食料品やエネルギー価格の高騰が続き、生活困窮者等の相談や支援件数も増加と、「8050 問題」や「ダブルケア」等の課題など、地域生活課題の複雑化・深刻化に対し1つ1つケースに応じた対応を進めました。

令和7年度からスタートした重層的支援体制整備事業では、「参加支援事業」「地域づくり」を受託し、具体的な支援プラン作成2件や、資源とのマッチングなど生活環境の向上に取り組みました。

社協とともに歩む社会福祉団体の持続可能な運営を援助する拠点センターを配置し、団体活動の活性化等に、一体となった取り組みを進めています。篠山児童クラブについては、単独の園長を配置し、運営の充実を図りました。

今後も、事業計画に示す地域福祉事業、地域包括支援機能、介護サービス、相談支援の各事業を充実し、重層的なセーフティネットの構築に取り組みます。

また、本会の事業運営・経営ビジョン、目標を明確にし、その実現に向けた組織、事業、財務等に関する具体的な課題を示した「中期経営計画」を策定するとともに、地域福祉を支える福祉人材の確保・育成・定着に向け「人材育成計画」を策定し、今後も住民の皆さんに信頼される組織体制整備を進めていきます。

更に単身世帯の増加や身寄りのない高齢者が増加する中、社会福祉法人が成年後見人となり判断能力が不十分な人の保護・支援を行う「法人後見業務」に取り組むため定款変更を行いました。

法人運営においては、長くご利用いただきました喫茶ふれあいについて、継続する赤字経営と福祉事業との連携の役割も一区切りとなったことから、3月27日をもって閉店しました。善意銀行への金品や物品の預託、企業からの寄付金等多くの支援をいただきました。それぞれの意向に沿って地域福祉事業への充当、必要とする方へ払い出しを行いました。

令和8年5月29日

社会福祉法人 丹波篠山市社会福祉協議会 会長 前田 公幸

計画の柱Ⅰ『身近な地域での福祉のまちづくり』

活動目標Ⅰ「住民同士が気にかかけあえる関係づくりをすすめよう」

関 連 事 業	事業報告	
ふれあい・いきいきサロン事業 (1,512,210円)		
目標達成への取り組み	R7事業計画	R7事業実績
年齢や属性を問わず地域住民が気軽集える場の立上げや、運営の継続を支援していきます。	ふれあい・いきいきサロン実施団体へ補助金を交付し、活動を支援します。 取り組み団体（60団体）	ふれあい・いきいきサロン実施する61団体へ補助金を交付しました。（11団体増）上記実施団体に対して、R5～R7の活動状況調査を行い、引き続き地域でのつどい場づくりを支援します。

活動目標Ⅱ「小さな困りごとを地域みんなで考えよう」

関 連 事 業	事業報告	
生活支援体制整備事業(14,260,881円)		
目標達成への取り組み	R7事業計画	R7事業実績
まちづくり協議会と連携し「地区福祉会議」や「集落福祉会議」の開催など、福祉課題の共有や取り組みを支援します。	地区代表者会議と連携し、19地区での地区福祉会議の開催を支援します。 （19地区）	地域課題を共有し解決に向けた連携強化のため、代表者会議（41回/17地区）と地区福祉会議（18地区）で開催されました。
	集落等福祉会議の開催につなげます。 （6自治会）	見守り、防災やつどい場など、身近な自治会での話し合いを推進しました。 （5地区）
	困りごとのニーズ把握、地域資源とのマッチングや情報提供に取り組みます。	高齢者の生活支援ニーズ調査を行いました（3地区）。高齢者や子どものつどい場支援や、地域、事業所、企業などからの相談に対応（4件）しました。

	住民、社会福祉法人や企業と連携し、見守りや買物、移動支援など、生活課題解決の取り組みを支援します。	地域、社会福祉法人等と連携し生活課題の解決に向け支援しました。買物移動支援（10件）やゴミ袋が購入できない方への配送支援について協議しました。
	避難に支援が必要な方の災害ケアプラン作成事業に取り組みます。（10件）	当事者、地域支援者やケアマネジャーなどと一緒に、避難支援方法を確認しました。（3件）
地域の福祉課題の解決に向けた、住民、専門職、行政、企業等と多様なネットワークをつくります。	民間企業やNPO法人等とネットワークを強化し、地域貢献活動を実施します。移動販売車による支援2箇所	企業、NPOとのネットワークによる、宅配移動店舗事業（2自治会）の実施や、高齢者施設と地域貢献活動に向けた意見交換（1回）を行いました。

関 連 事 業		事業報告	
福祉委員活動事業（1,197,000円）			
目標達成への取り組み	R7事業計画	R7事業実績	
まちづくり協議会地区単位（19地区）で福祉委員連絡会を開催します。	まちづくり地区単位で福祉委員連絡会を開催します。	まちづくり地区単位で福祉委員連絡会を、2地区で開催しました。	
	福祉委員の全体研修会、スキルアップ研修会、リーダー研修会を開催します。 （計3回）	各地域での福祉委員活動を推進するため、全体研修会、スキルアップ研修会、リーダー研修会を各1回（計3回）開催しました。	
自治会長、民生委員・児童委員、民生・児童協力委員との連携した活動の体制づくりを支援します。	民生委員児童委員協議会との意見交換会を開催します。 （1回）	各委員とも改選年度であったため開催を見送りました。次年度に新任委員にて開催予定。	

関 連 事 業		事業報告	
福祉学習推進事業（238,014円）			
目標達成への取り組み	R7事業計画	R7事業実績	
自治会や企業を対象に、関係機関と連携し福祉学習会の開催を推進します。市内の小中高の児童及び生徒に福祉学習を推進することにより、ボランティア活動や地域づくりに参画する人材を育成していきます。まずは、小中学校や教育委員会の連携を深める活動を強化していきます。（小14校、特1、中5校、高3校）	自治会で福祉学習を開催します。 （1回）	身近な地域において、介護や介助に関する講話や講義、体験による福祉学習を開催しました。 （3か所）	
	市内学校で福祉学習を開催します。 （11回）	市内学校で、車いすやアイマスク等の福祉学習を開催しました。（13校）	
	福祉ジュニアカレッジを開催します。 （1回）	手話エンターテイメント発信団oioiを講師に迎え、小学生を対象に福祉ジュニアカレッジを開催しました。（35名）	
	企業・事業所で福祉学習を開催します。 （1回）	企業等で開催される認知症サポーター養成講座の内容のひとつとして福祉体験を実施し、理解の深化を図りました。 （2回）	
福祉に関する多様な学習を推進します。	人権推進団体や当事者等と連携し多様な福祉学習を提案します。	高齢者疑似体験にほっとかへんネット丹波ささやまの事業所、知的・発達障がい者疑似体験にカラフルばる〜ん、災害対応クロスロードゲームに丹波篠山市防災士会の協力を得て、多様な福祉学習を実施（13回）しました。	

計画の柱2 『地域を支える担い手の育成』

活動目標3 「必要な人に届くボランティアの力を育もう」

関 連 事 業	事業報告	
・ ボランティア活動支援事業 (866,631円) ・ ボランティア活動費補助事業 (334,120円) ・ 手話・音訳奉仕員養成受託事業 (1,575,382円) ・ 介護支援ボランティアポイント制度事業 (85,431円) 見守り支援サポーター事業 (231,322円)		
目標達成への取り組み	R7事業計画	R7事業実績
地域のニーズに応じた養成講座を開催します。	保育ボランティア講座、災害講座、福祉レクリエーション、傾聴、片付け、掃除ボランティアの各養成講座を開催します。(6講座)	保育、傾聴、防災、清掃、福祉レクリエーション等のボランティア養成講座を開催しました。(6講座・94名)
利用者本位のサービスの提供にむけて、養成講座を開催します。	見守り支援サポーター養成講座を開催します。(3回)	見守り支援サポーター養成講座を開催しました。(3回・30名) 新規登録サポーター16名
福祉ニーズの把握や地域活動者の発掘とリーダーを育成し、地域のつながりづくりを支援します。	ボランティアグループの活動を補助し、グループ活動を支援します。(21団体)	ボランティアグループの活動を補助(15グループ)し、グループ活動を支援しました。(21グループ)
若年層のボランティア活動者のへの関心を高め、支え合いの活動へつなげます。	手話奉仕員の養成のため入門(20回シリーズ)、基礎課程(24回シリーズ)の講座を実施します。(夜間)	手話奉仕員の養成のため入門課程参加者19名、修了者15名、基礎課程参加者13名、修了者9名となりました。(夜間) 入門：20回シリーズ 基礎：24回シリーズ

	音訳奉仕員の養成のため音訳奉仕員養成講座を実施します。 (8回シリーズ)	音訳奉仕員の養成のため養成講座を開催しました。 (6回シリーズ) 参加者13名、修了者9名、内1名がボランティア活動を希望。
	介護保険施設等でのボランティア活動を支援します。 (会員数55名)	ボランティアポイントかわら版を発行し、介護保険施設等でのボランティア活動の周知と支援を行いました。 会員数45名 活動者16名 (5名増) かわら版発行6回/年 ポイント実績182ポイント
ボランティア活動の関心を高め、ボランティアセンター機能を充実させます。	ボランティア室の活動拠点づくり等、関係団体と意見交換し、その充実に努めます。	フードドライブ活動による食品保管場所の確保を含めボランティアの活動拠点のあり方について協議継続中。

計画の柱3 暮らしを支えるしくみづくり

活動目標4 「住み慣れた地域で、いきいきとした生活が送れるよう、
福祉サービスを充実させよう」

関 連 事 業	事業報告	
・ 東・西部地域包括支援センター受託事業 (94,847,868円) ・ 居宅介護支援公益事業 (34,052,816円) ・ 訪問介護サービス事業 (50,857,607円) ・ 障害者総合支援事業 (30,385,493円) ・ 相談支援事業所 (13,320,144円) ・ 見守り支援サポーター事業 (231,322円) ・ 見守り弁当サービス事業 (3,726,598円) ・ 外出支援サービス受託事業 (4,558,726円) ・ 介護機器貸出事業 ・ 友愛訪問事業 (590,786円)		
目標達成への取り組み	R7事業計画	R7事業実績
利用者が望む場所で可能な限り生活が続けられるよう、介護支援専門員やサービス事業所、関係機関が連携して介護保険事業を進めます。	各サービス事業所の専門性を発揮し、介護負担の軽減に努め、高齢者、障がい者の日常を支えます。	高齢者、障がい者等の各サービス事業所の専門性を発揮し、介護負担の軽減に努め、高齢者、障がい者の日常を支えました。(14,096件)
目標達成への取り組み	R7事業計画	R7事業実績
複雑化した支援ニーズに対し、関係機関と連携して支援を進めます。	関係機関と情報の共有を行い、相談支援を行います。また「個別地域ケア会議」を開催し、個別ケースの支援の充実を図るとともに、地域に必要な社会資源の開発に向け取り組みます。	個別地域ケア会議43件に取り組み、個別ケースの支援を進めました。

PRチラシの作成や様々な場所での発信により、地域包括支援センターの周知に努めます。	高齢者の総合相談窓口としての周知として、PRチラシを全戸配布します。	高齢者の総合相談窓口の周知として、PRチラシを全戸配布しました。 PRチラシ1回 センターだより12回
自立支援の視点に基づき、多職種連携、地域資源の収集や活用を行い、多様なサービスを一体的に提供できるケアマネジメントを実施します。	要支援および事業対象者のマネジメントを行い、介護保険法に基づくケアプランを作成します。 *東部120名、西部165名	介護保険法に基づくケアプランを作成しました。 東部：152名 西部：178名
生活課題の解決に向け、地域包括支援センターと協働し、個別地域ケア会議等で課題の解決を図ります。	特定事業所加算取得の事業所として、質の高い支援に努めます。	特定事業所加算取得の事業所として、質の高い支援に努めました。地域包括支援センターからの受託件数3件
ケアマネージャー、ホームヘルパーなどの専門職の若い世代の関心を高め、人材確保と育成に取り組みます。	SNSを活用し福祉関連情報提供し、介護職の周知と人材確保に努めます。	SNSを活用し福祉関連情報を提供し、介護職への理解と周知に努めました。
利用者のニーズに沿ったサービスを提供します。	介護保険法に基づく、ケアプラン作成と訪問介護サービスを提供します。 (居宅介護支援利用者155名、訪問介護利用者100名)	居宅介護支援利用者213名、訪問介護利用者86名へのケアプラン作成と、訪問介護サービスを提供しました。
専門機関など福祉サービス事業と連携を図り、相談しやすい窓口として、利用者の自立した生活を支援します。	障害者総合支援法に基づく障がい者、障がい児のケアプラン作成と居宅介護サービスを提供します。 (相談支援利用者180名、居宅介護利用者35名)	相談支援利用者222名、居宅介護利用者25名へケアプラン作成と、居宅介護サービスを提供しました。
利用者の自己決定を尊重し、利用者本位のサービスを提供します。	見守り支援サポーターによる家事支援を行います。(利用者40名、サポーター25名)	見守り支援サポーターによる買い物や調理等による家事支援を進めました。 (利用者61名)

	高齢者世帯等へ見守りを兼ねた昼食支援を行います。（利用者190名）	利用者169名への見守りと昼食配食支援を進めました。 食数17,068食／年 サービス事業者6事業所
	弁当事業所の選択の幅を提供できるように社協-事業所間で調整を行います。	弁当事業所の選択について事業所1か所の撤退に伴い単独選択地区が増えましたが、19地区中13地区で複数選択可能となっています。
	公共交通の利用困難な方の通院を支援します。 （利用者数24名）	公共交通の利用困難な方の通院を支援しました。利用者14名 稼働日数：184日/年
	車いすを無料（1週間以内）で貸し出します。 車いす13台 （内）自走式10 介助式3	車いすを無料（1週間以内）で貸し出し一時的な生活を支援しました。 貸出件数57件 利用人数44名 （贈）関西遊技機商業組合介助式2台 （クッション付）増
友愛訪問を通し、見守りや困りごとの相談のきっかけを提供します。	民生委員による見守りが必要な方へ友愛訪問を実施します。 （友愛訪問対象者1,350名）	友愛訪問対象者1,240名への民生委員による友愛訪問を実施しました。

活動目標5「暮らしを支えるしくみをつくろう」

関 連 事 業	事業報告	
・心配ごと相談所事業（147,062円） ・生活福祉資金貸付事業（7,033,993円） ・緊急貸付資金事業（111,000円） ・生活困窮者等支援給付事業（17,115円） ・生活困窮者支援体制強化事業 （事業費は生活福祉資金貸付事業に含む）		
目標達成への取り組み	R7事業計画	R7事業実績
相談しやすい場を提供し、周知に努めます。	心配ごと相談所を開設します。開設場所、回数、体制について検討します。（55回／年）	民生委員、専任相談員による心配ごと相談所を開設しました。（48回／年）相談件数12件（解決3件、関係機関へつなぐ9件、助言1件）
困りごと解決に向けて、相談者、各機関、行政と共に考えます。	生活困窮者対応相談窓口として「ほっとかへんネットワーク」を配置し、複雑・多様な生活課題に対応します。	生活困窮者対応相談窓口として「ほっとかへんネットワーク」を配置し、特例貸付借受世帯（計254世帯）の実態調査の実施や複雑・多様な生活課題に対応しました。（相談543件）
	他の貸付制度が利用できない低所得世帯等へ生活福祉資金により支援します。（貸付件数20件）	生活福祉資金の借受世帯19件について支援しました。
	他の金融機関で貸し付けを受けられない低所得世帯へ緊急貸付資金により支援します。（貸付件数29件）	緊急貸付資金として、総貸付件数35件（内、新規の貸付4件）を支援し、8件の借受世帯が償還を完了しました。
	貸付制度では以降の生活が見通せない場合など、限定的な給付を行い支援します。	生活困窮世帯等で地域の環境やコミュニティの維持に影響を及ぼす事態を解決するため必要な資金を給付しました。（1件）

関 連 事 業	事業報告	
・ファミリーサポートセンター補助事業 (4,226,638円) ・子ども一時預かり事業 (418,185円) ・篠山児童クラブ運営受託事業 (35,811,256円)		
目標達成への取り組み	R7事業計画	R7事業実績
のびのびと安心して子育てできる環境づくりに向けて活動を進めます。	ファミサポ協力会員による援助活動を行います。 (360回/年)	育児の支援を受ける方、援助を行う方等を組織化し、ファミサポ協力会員による子育て援助活動を行いました。 (337回/年)
	子ども一時預かり事業により支援します。 (延べ利用者数216名)	ファミサポ協力会員等の協力を得て、子ども一時預かり事業を実施し子育て環境の充実に図りました。 36回/年 延べ利用者数252名
	篠山児童クラブにより支援します。単独の園長を配置し運営の充実に図ります。 (利用児童数123名)	保護者の就労等による子育ての両立を支援するため、篠山児童クラブを受託し放課後児童の健全育成に取り組みました。 利用児童数:131名

関 連 事 業		事業報告
・ フードドライブ フードパントリー事業 (371,174円) ・ 丹波篠山・つながろうフェスタ2025 (504,380) ・ 社会福祉大会 (308,916円)		
目標達成への取り組み	R7事業計画	R7事業実績
住民、団体、企業等がすすんで参加できる助け合いの活動を推進します。	丹波篠山・つながろうフェスタの開催 (1回/年) 令和7年9月23日 (火)で調整中 四季の森生涯学習センター	丹波篠山つながろうフェスタ2025、丹波篠山市社会福祉大会(共同募金プレイベント)を開催しました。関係13団体の出展、映画の上映等により約750名の来場がありました。
住民と協働した生活支援サービスの充実を図ります。	フードドライブによる支援(2回/年)	食料品983品 日用品401品のご協力をいただきました。 延べ140世帯(224人)へ支援を届けました。

活動目標6「その人らしい生き方を支援しよう」

関 連 事 業		事業報告	
日常生活自立支援事業（権利擁護の推進） （7,479,694円）			
目標達成への取り組み		R7事業計画	R7事業実績
本人の意思と権利を尊重し、希望に沿った支援に取り組みます。		判断能力に不安のある方の支援（利用者数37名）	利用者数37名への支援を生活支援員（10名）とともに支援を行いました。
		多様化するニーズに対応するため、関係機関との連携を強化します。	ウィズ・ユーなど権利擁護関係機関等との連携の下、支援を進めました。
		法人後見業務について検討します。	法人後見業務や身寄りのない高齢者支援の体制づくりについて協議を進めました。

	研修会に参加し、職員と生活支援員の資質向上に努めます。	権利擁護に関する研修会に参加し、職員と生活支援員の資質向上に努めました。 (研修5回)
--	-----------------------------	--

関 連 事 業		事業報告
福祉団体育成事業（1,062,499円）		
目標達成への取り組み	R7事業計画	R7事業実績
各団体が自主的な組織運営と魅力ある活動になるよう支援します。	老人クラブ、身体障害者福祉協議会、手をつなぐ育成会の活動を支援します。	老人クラブ（2,470名）、身体障害者福祉協議会（113名）、手をつなぐ育成会（65名）の年間活動を支援しました。新たに福祉団体事務室を構え、各団体の運営や活動に関する相談に応じました。

関 連 事 業		事業報告
・ ひきこもり支援事業 (92,632円) ・ 要保護児童への支援事業 (92,579円) ・ ささっこ宅配弁当(見守り弁当サービスを含む)		
目標達成への取り組み	R7事業計画	R7事業実績
課題を抱えた人の自立・社会参加を図るために、住民の理解を深めて地域における生活環境の改善に取り組み、関係各所と連携して支援体制の充実を図ります。	気軽に立ち寄り、悩みや話ができる「つどい場」を開催します。(12回／年)	気軽に立ち寄り、悩みや話ができる「つどい場」を2回開催しました。
	夏季、冬季の学校の長期休業期間に「ささっこ食堂」を開催します。(2回／年)	夏季の長期休みに支援が必要な世帯の子どもを対象に「ささっこ食堂」を実施しました。 開催日：6日／年 参加者：延べ38名

	子育て世帯を対象に、学校の長期休業期間の昼食支援を行います。(利用者5世帯)	夏季、春季の長期休みに支援が必要な世帯の子どもを対象に「ささっこ宅配弁当」を実施しました。 利用者：10世帯 実施日：19日/年 食数：延べ320食)
--	--	--

関 連 事 業		事業報告
重層的支援体制整備事業（新規） ・参加支援事業（6,387,954千円） ・地域づくり事業（7,083,649円）		
目標達成への取り組み	R7事業計画	R7事業実績
複雑化・複合化した狭間のニーズへの対応として、包括的な支援体制を整備し支援ニーズを有する本人やその世帯が抱える課題を把握し、社会資源や支援メニューとのコーディネートを行い社会参加に向けた支援を行います。	社会とのつながりを作るための継続的な支援を行います。参加支援プラン作成1件/年	社会とのつながりを作るため、継続的な支援を行いました。参加支援プラン作成2件/年
	新しい社会資源に働きかけたり、既存の資源の拡充を図ります。 新たな社会資源開発1か所	福祉分野以外の団体等との関係構築を進めるほか、既存の社会資源の拡充にも取り組みました。 既存の社会資源の拡充2箇所
	社会参加に向けて段階的な支援が必要な方（上記参加支援プラン作成以外の相談支援）の支援5件	社会参加に向けて段階的な支援が必要な方（上記参加支援プラン作成以外の相談支援）の支援3件

社協目標Ⅰ 「住民から信頼される社協をつくります」

関 連 事 業	事業報告	
・法人運営事業（85,674,725円） ・役職員の資質向上のための研修会事業 ・高福祉維持のための職員を支える事業 ・大規模自然災害、感染症に対する事業		
社協の取り組み	R7事業計画	R7事業実績
理事会（執行機関）や評議員会（議決機関）の持つ機能が、より発揮されるよう活性化を図ります。	理事会、評議員会を定期的に開催し、役職員研修会も実施します。	役員改選の年度もあったため、新たな役員のもと、理事会、評議員会を開催及び役員研修を実施しました。 （理事会5回、評議員会3回、役職員研修会1回、監事研修1名参加）
中期経営計画の策定に取り組めます。	プロジェクトチーム及び策定委員会を設け、計画内容を検討し、中期経営計画を策定します。	中期経営計画（R7～12年）の策定を行いました。
既存事業の見直しや新規事業の開発に努め、多様な生活・福祉課題へ対応できる法人の基盤整備を行います。	既存事業の見直し、新規事業について検討します。	事業計画（案）を作成する前に、予算ヒアリングを実施し、既存事業の見直し及び新規事業の取組みについて検討を行い、事業計画、会計予算に反映しました。
子どもの意見を聞く場を設け、地域福祉推進計画及び事業計画に反映します。	福祉学習推進事業と連携し、市内の学生の意見を聞く場を設けます。 （高校1校、中学校1校、小学校3校）	福祉体験学習の開催を通じて、子どもの思い、意見を聞く場を設けました。 （13回）
職員が安心して業務に従事できるよう、安全衛生を向上させ、ITやクラウドツールの導入を検討し、業務の効率化を図るなど、職場環境の整備を行います。	安全衛生委員会を開催します。（6回／年） 職員の意見を聴取し、ITやクラウドツールの導入について検討します。	職場の安全や衛生について検討しました。 安全衛生委員会10回 安全衛生研修会1回

人材育成計画を策定し、計画的な人材育成に取り組みます。	計画の実施・評価・見直しを行います。	人材育成計画（R7年12月）の策定を行いました。
ほっとかへんネット丹波ささやま（市内社会福祉法人11法人が平成28年2月発足）の事務局を担い、地域公益活動を推し進めます。	ほっとかへんネット丹波ささやまとして、地域の生活・福祉課題の解決に取り組めます。	ほっとかへんネット丹波ささやまとして、地域の生活・福祉課題の解決に取り組みました。またソーシャルワーク実習として実習の受け入れについて連携事業として取り組みました。
協定を締結した組織や災害ボランティアグループの役割を整理し、支援体制の充実に向け、ネットワーク会議を通じた体制づくりを進めます。	協定を締結した組織や災害ボランティアグループとの、ネットワーク会議を通じた体制づくりを進めます。	協定を締結した組織や、災害ボランティアグループによる災害ボランティアセンターネットワーク会議を開催しました。 参加団体：15団体 ＊内新規参加団体1団体
社協独自の防災訓練を実施します。	災害ボランティアセンター設置、運営マニュアルに従い訓練を行います。	災害時職員招集訓練を1回実施し、連絡体制や活用ツールについて共有を図りました。
災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルを必要に応じて見直します。	災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルを必要に応じて見直します。	令和元年度に改定した災害ボランティアセンター設置、運営マニュアルの見直しを行いました。

社協目標 2 「社協の魅力を伝えます」

関 連 事 業		事業報告	
社協関連情報の発信に関する事業  (784,270円)			
社協の取り組み		R7事業計画	R7事業実績
住民が情報とつながるツールが多様化している状況を踏まえ、常に新しい情報発信の方法を模索します。		広報部会を開催し、情報発信について検討します。	広報誌のリニューアルを行うとともに、広報部会を開催し、掲載記事や情報発信のあり方について検討を重ねました。 また、HPのリニューアルについて、検討を行いました。 広報部会：7回/年
社協の活動内容のみならず、地域の福祉に関するさまざまな情報をわかりやすく提供できるように工夫します。		広報部会を開催し、情報発信について検討します。	社協広報誌や共同募金通信、福祉委員通信などの発行時期や内容について調整・検討を重ね、市民にとって効果的な情報発信の提供に努めました。
住民に届けたい情報をわかりやすく、様々なツールを活用し、幅広い世代に向けて発信します。		SNSを活用し、情報発信します。HP、広報誌をリニューアルし、わかりやすい情報発信を行います。	SNS（Instagram、Facebook、YouTube）を活用し、情報発信しました。広報部会を立ち上げ、情報発信ツールについて検討しました。 記事投稿：130件/年

社協目標3 「地域福祉活動の財源確保に努めます」

関 連 事 業	事業報告	
・ 善意銀行運営事業（3,384,273円） ・ 赤い羽根共同運動（7,597,274円） ・ 歳末たすけあい運動（3,078,978円） ・ 喫茶ふれあい収益事業（7,027,211円）		
社協の取り組み	R7事業計画	R7事業実績
広く金品の預託を受け付け、預託者の意思に基づいた配分、払い出しを行います。	善意の金品預託を受け、預託者の意思を尊重した払い出しや地域福祉活動及び基金に積立て地域福祉事業の推進に活用します。	金銭預託46件、物品預託84件の善意の金品預託を受け、預託者の意思を尊重した払い出しや地域福祉活動及び基金に積立て地域福祉事業の推進に活用しました。
会費納入者や寄付者に対し広報誌やホームページ等を活用して寄付目的、資金使途を広く周知し透明性の確保に努めます。	赤い羽根共同募金通信の発行やカレンダーなどのオリジナル資材を活用し、募金活動の周知と理解を図ります。	赤い羽根共同募金通信の発行やInstagram、カレンダーなどのオリジナル資材を活用し、募金活動の周知を図りました。
直接現金による募金活動に加え、インターネット募金や募金百貨店プロジェクトを通じて、より身近で気軽に寄付できる仕組みを検討します。	募金百貨店プロジェクトを含め新たな募金活動について検討します。 募金百貨店14事業所	募金百貨店プロジェクトやインターネット募金など新たな募金活動の取り組みを進めました。 募金百貨店15事業所

施設利用者や地域住民へ、憩いの場と食事を提供し、安心でき、利用しやすい環境を提供します。	利用者30名/日 程度	喫茶ふれあいを運営し、来館者の憩いの場として食事を提供してきましたが、事務局内、理事会・評議員会での検討のうえ、令和8年3月27日をもって閉店しました。
社会的ひきこもり就労支援事業と要保護児童への支援事業（ささっこ食堂・弁当）の支援を行います。	社会的ひきこもり就労支援事業1名 要保護児童への支援事業はささっこ食堂の実施回数に準ずる	社会的ひきこもり就労支援事業の受け入れは、就労希望者がなかったため受け入れはありませんでした。